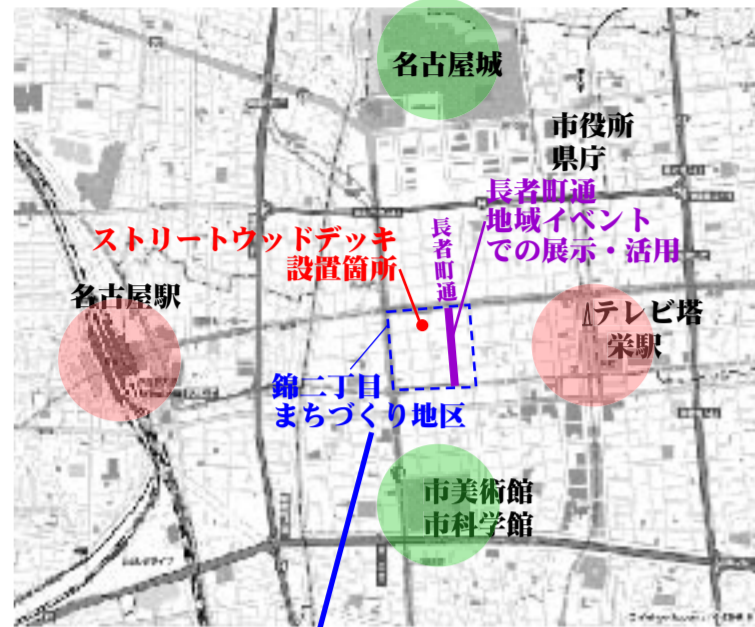


錦二丁目 ストリート・ウッドデッキ

■名古屋都心のど真ん中で木を使う

■「まち」と「やま」のいい関係



「やま」の事情

- 「やま」伊勢湾流域圏の森林の課題
- ・木材の都市部での活用、地産地消が進まない。
- ・木材活用が進まず、森林の自然環境も悪化している。
- ・木材価格の低迷など、「やま」側の担い手が不足。

「まち」の事情

- 「まち」錦二丁目地区の課題
- ・街なかに人々が憩う場がなく、公園もない街。
- ・長者町通りは街路樹もなく殺風景な景観。
- ・自動車中心から歩行者に優しい通りへ転換したい。

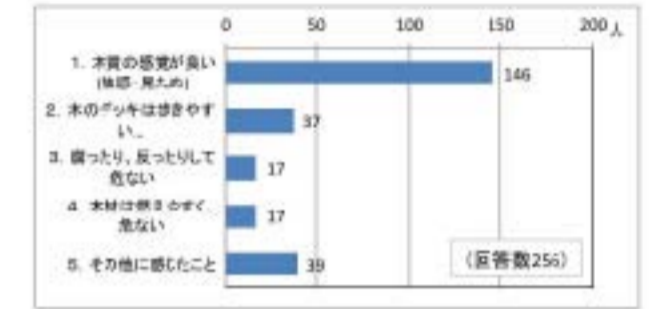


■パブリックスペースに木を使う

木の文化の国日本の公共空間は、いつの間にか鉄とガラスとコンクリートで占められてしまった。道路などの公共空間での木材活用はあまり進んでいないため、あえて都市部の公共空間での木材活用を今回試みている。

■利用者は「木質の感触」を評価

イベントでの展示・活用時にアンケート調査を行った。来場者の84%が良い取組みと評価され、最も評価されたのは手触りや見た目などの「木の感触がよい」との回答が圧倒的に多かった。



■地域まちづくり団体が維持管理を担う

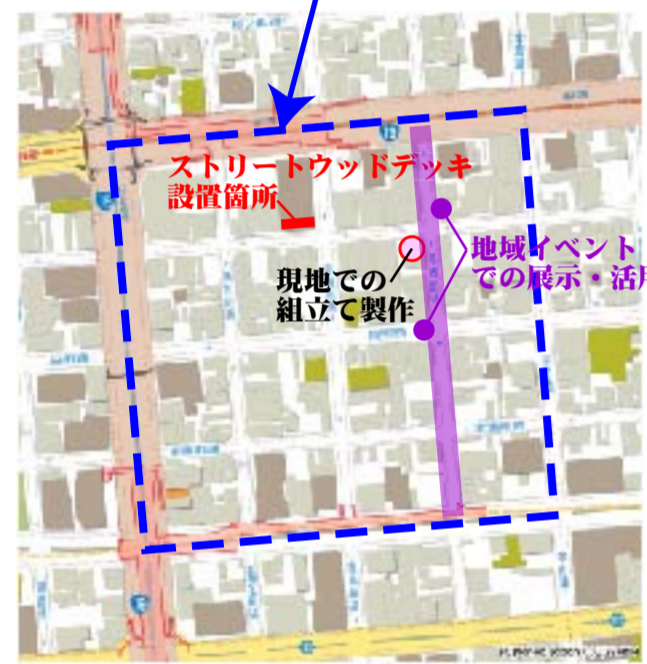
このプロジェクトは大学機関と建築専門家、そして地域まちづくり団体が協働して企画から制作まで一緒に取り組んできた。だから、最終的な活用や維持管理には地元が主体的に役割を担っている。

■実は、都心の貯木場のような役割を活用サイクル

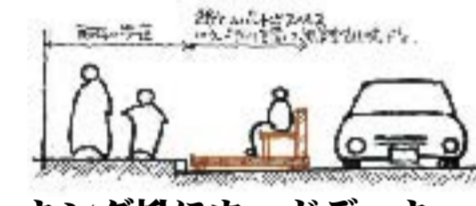
あえて乾燥前の生木を利用し、都心で活用する間に自然乾燥させる。乾燥後は、解体して再び製材して二次利用し、新たな生木でデッキを更新していくような、いわば「都心の貯木場」の役割も担う。そのためデッキ材は、塗装や防腐加工をせず、柱のような太い径の木材で製作している。

■地球環境への貢献

- ①乾燥前の生木を活用し、都心で自然乾燥させることで機械乾燥によるCO2発生を削減できる。
- ②地域木材の活用によって森林の保全育成が進み、CO2の吸収が促進される。



長者町通りの現状



当初は、路上パーキング柵にウッドデッキを設置して歩道空間を広げる構想



歩道沿いの民間オープンスペースに設置して活用中



長者町通りへの設置イメージ

2011年

都市の木質化プロジェクト

- ・長者町地域で地元参加のワークショップ
都市部での木材活用策を考える

2012年

- 8月 アートイベントで活用
- 11月 長者町あびす祭りで活用
- ・ストリートウッドデッキを試作して
地域イベントで活用する

2013年

■今後の展開、普及への課題

- 8月~10月 あいちアートトリエンナーレが長者町で開催。木質ベンチを多数設置してお出迎え作戦を準備中



長者町での木材活用アイデアワークショップ



ストリートウッドデッキの試作品を地元長者町の問屋ビルを借りて組立製作



アートイベント会場で展示・活用



長者町あびす祭りでも展示・活用



ウッドデッキ以外にも地元お祭り実行委員会メンバーがデッキの端材で木質ベンチを自ら制作、次年度への展開につながる。

- ・今回、道路占用の行政許可は出なかった（法の適用外）今後、道路占用の可能性を探って改善や改良を重ねたい。
- ・街に増えているコインパーキングの殺風景な景観を駐車場フェンスの木質化ができないか模索中。
- ・「街なか手づくり木工房」構想を検討中。都心部のDIY拠点でウッドデッキや木ベンチのメンテナンスをしつつ、様々な都心部での木材活用を普及啓発したい。